

### 1 PLAN(目的・概要)

政策名	港湾の安全確保と大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくり	30年度事業・施策評価結果		責任者	総務部 危機管理課長	
施策名	港の安全性・信頼性・危機管理の向上	成果	コスト			
事務事業名	名古屋港港湾機能継続計画(名古屋港BCP)の推進			連絡先	052-654-7813	
				連携先	計画担当、港営課、海務課、工事課	
目的	対象(誰・何を)	名古屋港の港湾機能			事業期間	平成27年度～
	意図(どういう状態にしたいか)	災害発生時に関係者が連携して的確に対応することにより、早期回復を図ります。				
概要	名古屋港BCP協議会を開催するとともに、ワークショップなどを通じて、名古屋港BCPの実効性を高めるための検討や訓練などを実施します。			根拠法令等		
令和元年度の実施予定	協議会を2回、ワークショップ(訓練を含む)を2回開催する予定です。			実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
				関連シート		

### 2 DO(実施)

令和元年度に実施した内容・結果	名古屋港BCP協議会2回(うち1回は新型コロナウイルスの感染拡大の防止の観点から書面開催)、ワークショップ2回開催しました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	8,208	9,288	8,910	8,802	
人件費	千円	—	—	7,339	7,339	
合計	千円	8,208	9,288	16,249	16,141	

### 3 CHECK(検証)

成果目標名		29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
協議会及びワークショップ・訓練を実施した回数(回) (単年度管理型)	目標			4		4	協議会 2回 ワークショップ(訓練を含む) 2回	
	実績	4	4	4				
事業進捗状況(元年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり	目標値を下回る		
	目標							
	実績							
事業進捗状況(元年度)								
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	協議会を2回、ワークショップを2回行い、名古屋港BCPの実効性を高めることができました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 災害発生時に関係者と連携して的確に対応し、港湾機能の早期回復を図る必要があるため、本組合として必要性の高い事業です。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ 名古屋港BCPの推進は、災害発生時における港湾機能の早期回復を図ることとなります。						
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 最低限必要な業務委託費用、人件費で実施しました。						

### 4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	港湾機能の早期回復が図れるよう、継続して実施する必要があるため。
取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。			
課題		2年度以降の取組	
災害発生時の港湾機能の早期回復に向けて、名古屋港BCPの実効性を高めていく必要があります。		引き続き、名古屋港BCP協議会を開催するとともに、ワークショップなどを通じて、名古屋港BCPの実効性を高めるための検討や訓練などを実施していきます。	